

いつも、先生は、体裁ばかり気にしていて、生徒が悩んできた過程を無視している。そんな人たちとは、こちらから縁を切ってやると思った」

### (3) 現在の心境

「最初は何となく、他人の冷たい視線を感じることがあった。友だちと遊ぶ時間も合わない、高校卒業でないと不利という先入観があった。確かに、高校を卒業した仲間がうらやましかったり、もう一度高校生活をしたいと思ったりすることもある。しかし、今は子育てに夢中なためか、現在の生き方にはある程度満足している」

### (4) どうしたら中途退学しなかったか？

「自分たちは、状況的には中途退学しなければならなかったかもしれない。それは仕方ないと思った。しかし、そこに至るまでの経緯に問題があると思った。いろいろな問題を起こして中途退学していく仲間もたくさんいた。印象として感じたことは、自分たちは邪魔にされていたということだ。確かに、悪いことをしたから罰を受けるのは仕方ない。教師の立場も分かるが、彼女に対して興味本位で「相手は誰か」と追及するのはどうかと思った。まるで、犯人探しみたいだと思った。もっと俺たちが望んでいたことは、どうしてこういうことをしたらやめていかなくてはならないのかを、分かりやすく諭してほしかった。その後、自分たちが生きていくことを考えたら、すごく不安になる。両親が全面的に守ってくれたからよかったが、学校は何を教えてくれたのかと今でも思っている。問題行動を起こしたから、自動的にやめていくというだけでは、学校の存在価値がないような気がした。俺たちはどうしたらいいのか困っていて、妊娠8カ月まで、誰にも相談できなかった。すごく不安で、毎日怖かった。しかし、もう限界だと思い、彼女は（担任教師に）打ち明けた。気持ちを受け止めてくれることさえしてくれれば、納得して中途退学できた。心を打ち明けたのにも関わらず、教師との信頼関係が築けないまま中途退学してしまったことだけが残念である」

E君は、働きながら通信制高等学校サポート校に在籍中である。

## 5. 考察

事例研究から明らかになった各事例における「中途退学の原因」および中途退学予防のための「心理的支援」を因子分析から特定した分類に当てはめると